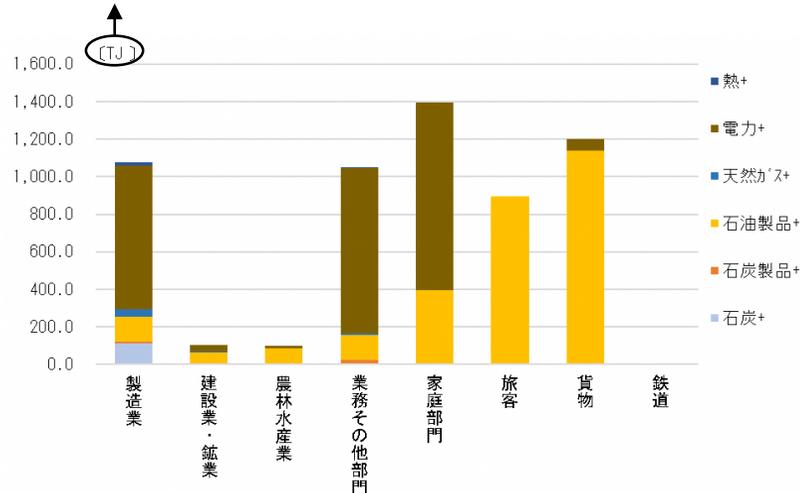


【第3回委員会のご意見】

事業種別ごとの燃料消費量に基づいた使用エネルギー需要量を整理する。

TJ(テラジュール)とは？

- ・ Jは熱量単位であり、1Nの力で物体を1m動かすときの仕事に相当。
- ・ 単位の異なるエネルギー源を比較するために、TJで示した。
- ・ 特に電気は排出係数が年度により変動するため、どこでなにかどれだけ使用されているかを比較するにはTJが適している。



単位 [TJ]

部門	エネルギー源						総合計	人口一人当たりのエネルギー需要量	
	石炭+	石炭製品+	石油製品+	天然ガス+	電力+	熱+		南相馬市	福島県
製造業	112.98	6.76	133.49	41.90	766.10	17.85	1,079.09	18.04	37.94
建設業・鉱業	0.00	0.01	64.29	2.03	36.50	0.00	102.84	1.72	1.36
農林水産業	0.00	0.00	88.17	0.00	11.51	0.00	99.68	17.51	2.81
業務その他部門	3.78	21.98	131.54	6.52	882.89	0.89	1,047.60	17.51	24.11
家庭部門	0.00	0.00	396.97	0.00	997.34	0.00	1,394.32	23.30	25.16
旅客	0.00	0.00	896.09	0.00	0.00	0.00	896.09	14.98	13.86
貨物	0.00	0.00	1,137.39	0.00	65.44	0.00	1,202.83	20.10	0.01
鉄道	0.00	0.00	3.40	0.00	0.00	0.00	3.40	0.06	1.15
合計	116.77	28.75	2,851.35	50.44	2,759.79	18.75	5,825.84	97.37	106.39

図表-1 部門別消費エネルギー量

※資源エネルギー庁「都道府県別消費統計」より作成

※南相馬市内の2019年度データを示している

※人口は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」のデータを使用

市内の部門別にエネルギーの需要量を整理した。
これにより、各分野において、何をどれだけ使ったが分かる。



特徴①

家庭部門のエネルギー需要量が最も多く、そのうち 約72%を電気が占める。

特徴②

石油製品のエネルギー需要量が特に多いのは、貨物、旅客である。これらはエネルギー需要量のうち、石油製品が約95%が占める。

特徴③

製造業、業務のその他部門、家庭部門はエネルギー需要量に占める電力の割合が高い。

特徴をつかんだうえで施策検討をすることが重要